

平成 27 年度 海上保安庁関係補正予算の概要

1. 戦略的海上保安体制の構築等	232 億円
(1) 巡視船艇・航空機の整備	195 億円
① ヘリ搭載型巡視船	新規 1 隻 代替 35 億円
② 中型巡視船	新規 2 隻 代替 13 億円
③ 規制能力強化型巡視船	新規 3 隻 増強 20 億円
④ 大型巡視艇	新規 2 隻 代替 18 億円
⑤ 大型巡視船	継続 2 隻 代替 24 億円 <small>(平成 25 年度補正措置船の建造前倒し)</small>
⑥ 新型ジェット機	新規 1 機 代替 64 億円
⑦ ヘリコプター	新規 1 機 代替 21 億円
(2) サミット海上警備	5 億円
(3) 宮古島の拠点機能の確保等	14 億円
(4) 指揮命令・秘匿通信機能強化等	12 億円
(5) 自律型海洋観測装置 (AOV) 購入等	6 億円
2. 海上保安官署施設復旧	3 億円
3. 航路標識災害復旧【公共】	9 億円
4. 航路標識整備 (防災・減災対策)【公共】	11 億円

海上保安庁補正予算合計 255 億円

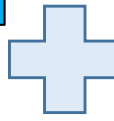
尖閣諸島周辺海域や離島・遠方海域を含めた全国における対応能力の強化を図るための戦略的海上保安体制の構築のほか、海洋権益の確保等を推進する。

- 【尖閣】
- ・外国漁船の活動の活発化
 - ・周辺海域における国際情勢の緊迫化 等
- 【全国】
- ・外国漁船による違法操業
 - ・調査船等による海洋調査・資源探査
 - ・船舶事故、海上災害 等



尖閣諸島周辺海域における隙のない海上保安体制の構築

- ・航空機による尖閣 24 時間監視体制の構築
- ・外国漁船に対応した規制能力強化型巡視船の増強整備及び拠点確保



全国における隙のない海上保安体制の構築

- ・離島・遠方海域における対応能力の強化
- ・高性能化を図った巡視船等の計画的な代替整備
- ・指揮命令・秘匿通信機能強化のための情報通信体制の整備

尖閣諸島周辺海域における隙のない海上保安体制の構築

新型ジェット機【1機（代替）】

尖閣諸島周辺海域において、不審事象、不法行為等を早期に探知

- 【特性】
- ・搜索監視能力
 - ・航続性
 - ・速力



ファルコン2000LXS

規制能力強化型巡視船【3隻（増強）】

尖閣諸島周辺海域において、外国漁船等による不審事象、不法行為等に的確に対応

- 【特性】
- ・追跡捕捉能力
 - ・規制能力
 - ・情報伝達能力



船艇用品庫等の整備



船艇用品庫外観

船艇倉庫



給水設備



陸電設備

海上保安官署施設復旧

天井損壊



航路標識災害復旧

傾斜

公共



全国における隙のない海上保安体制の構築

ヘリコプター2機搭載型巡視船【1隻（代替）】

離島・遠方海域における治安及び海洋権益の確保、海難救助等に迅速かつ的確に対応

- 【特性】
- ・災害対応能力
 - ・搜索監視能力
 - ・指揮能力



大型巡視船既着工分の前倒し

- 【特性】
- ・規制能力
 - ・速力



中型巡視船【2隻（代替）】

- 【特性】
- ・荒天下航行能力
 - ・災害対応能力



全国における海難、海上災害、不審事象、不法行為等に迅速かつ的確に対応

大型巡視艇【2隻（代替）】

- 【特性】
- ・監視能力
 - ・情報伝達能力



ヘリコプター【1機（代替）】

- 【特性】
- ・搜索監視能力
 - ・輸送能力



航路標識整備（防災・減災対策）

公共

豪雨による反射映像が映りこみ、局地的に船舶の航行状況が把握不能



レーダー改修